資料一3[様式集] 令和5年度 第2回 北陸地方整備局 事業評価監視委員会

# 一般国道 8 号(高岡環状道路)六家立体 費用対便益算出資料 [様式集]

様式一1	P 1
様式一2	P 4
様式一3①	P 6
様式-3②	P 8
様式-4	P 1 1
様式-5	P 1 3
参考様式1	P 1 4
参考様式 2	P 1 6

令和5年11月 北陸地方整備局

# (再評価)

様式 1 客観的評価指標による事業採択の前提条件、事業の効果や必要性の確認の状況

事業名	一般国道 8 号(高岡環状道路)六家立体
事業主体	北陸地方整備局

# ●事業採択の前提条件を確認するための指標

指標チェックの根拠	全   休:費用便益比(B/C)=1.1 (経済的総現在価値(B-C)=12.8億円、総済的内部収益率(EIRR)=4.6%)   残事業:費用便益比(B/C)=1.8 (経済的総現在価値(B-C)=54.6億円、経済的内部収益率(EIRR)=8.4%)
指標	■ 便益が費用を上回っている
	事業の効率性
	前提条件

# ●事業の効果や必要性を評価するための指標

政策目標 旧当なそにリ イイの確保 物流効率化の文 機	指 標 (対象となる指標のみ記載。効果が確認されるものは口を■に変更)  ■ 現道等の年間渋滞損失時間及び削減率  □ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される □ 現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される □ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する □ 現道等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する □ 第幹線配もしくは特急停車駅へのアクセス向上が見込まれる □ 第一種空港、第三種空港、第三種空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる  ■ 重要港湾もしくは特定重要港湾へのアクセス向上が見込まれる □ 無外水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性が向上	指標チェックの根拠 区間 製用便益分析対象区間について 医間 国道8号 短道について (10,069万人・時間/年) (20万人・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・時間/年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年) (20万円・年)
---	---	--

	-		
	毎中の中伊	□ 都市再生プロジェクトを支援する事業である	I
		■ 広域道路整備基本計画に位置づけのある環状道路を形成する	「北陸ブロック新広域道路交通計画」に高規格道路の位置付けがある「高岡環状道路」の一部区間である。
		□ 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	ţ
		ロ 中心市街地内で行う事業である	1
		□ 幹線都市計画道路網密度が1.5km/km2以下である市街地内での事業である	
		<ul><li>DID区域内の都市計画道路整備であり、市街地の都市計画道路網密度が向上する</li></ul>	ı
		□ 対象区間が現在連絡道路がない住宅宅地開発(300戸以上又は16ha以上、大都市においては100戸以上又は5ha 以上)への連絡道路となる	1
	国土・地域ネットワークの構築	口 高速自動車国道と並行する自専道 (A'路線) としての位置づけ有り	
		■ 地域高規格道路の位置づけあり	「北陸ブロック新広域道路交通計画」に高規格道路の位置付けがある「高岡環状道路」の一部区間である。
		〇 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	
		□ 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する	I
		□ 現道等における交通不能区間を解消する	F
		□ 現道等における大型車のすれ違い困難区間を解消する	
		ロ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる	
	個性ある地域の 形成	□ 鉄道や河川等により一体的発展が阻害されている地区を解消する	_
		□ 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する	
		■ 主要な観光地へのアクセス向上が期待される	当該交差点の渋滞解消や国道8号の混雑緩和により、能越自動車道と高岡市街地内のアクセス性向上が期待される。 (アクセス向上が期待される観光地:富山県高岡市・氷見市・南砺市、石川県七尾市)
		□ 特別立法に基づく事業である	_
		ロ 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である	
			ı
2. 幸らし	ノ 歩行者・自転車 のための生活空 間の形成	自転車交通量が500台/日以上、自動車交通量が1,000台/12h以上、歩行者交通量が500人/日以上の全てに該当 ロ する区間において、自転車利用空間を整備することにより、当該区間の歩行者・自転車の通行の快適・安全 性の向上が期待できる	
		<ul><li>交通バリアフリー法における道路特定事業に位置付けがある、または、交通バリアフリー法に基づく重点整 価地区における特定経路を形成する区間が新たにバリアフリー化される</li></ul>	
	無電柱化による 美しい町並みの 形成	ロ 対象区間が電線類地中化5ヶ年計画に位置づけ有り	
		<ul><li>□ 市街地又は歴史景観地区(歴史的風土特別保存区域及び重要伝統的建造物保存地区)の幹線道路において新たに無電柱化を達成する</li></ul>	1
	安全で安心できるくらしの確保	ロ 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	_
•	-		

3. 安全	安全な生活環境 の確保	現道等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存する場合において、交通量の減少、步道の設置又 口 は錦私不鳥区間の軽消塞により 当診区間の安全性の向上が趙徐ホネス	I
		当該区間の自動車交通量が1,000台/12以上、当該区間が通学路である場合は500台/12以上)かつ歩行者交回 通量100人/日以上(当該区間が通学路である場合は100人/日以上)の場合、又は歩行者交通量500人/日以上の場合において、歩道が無いては狭小な区間に歩道が影響される	
	災害への備え	□ 近隣市へのルートが1つしかなく、災害による1~2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する	I
		対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置 ■ づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線(以下「緊急輸送道路」という)とし て位置づけあり	当該区間が「富山県地域防災計画」の第2次緊急通行確保路線として指定されている
		□ 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	
		<ul><li>立行する高速ネットワークの代替路線として機能する(A'路線としての位置づけがある場合)</li></ul>	ŀ
		現道等の防災点検又は震災点検要対策箇所もしくは架替の必要のある老朽橋梁における通行規制等が解消さ れる	
		□ 現道等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間を解消する	
		□ 避難路~ ㎞以内で到達できる地区が新た ご増加する	
		□ 幅員 6m以上の道路がないため消火活動が出来ない地区が解消する	
3 -		□ 密集市街地における事業で火災時の延焼遮断帯の役割を果たす	ŀ
4.環境	地球環境の保全	● 対象道路の整備により削減される自動車からの002排出量	対象区域:費用便益分析対象区間 C O 2 排出削減量:約4991-602/年(約814, 1411-602/年 ⇒ 約813, 614t-602/年)
	生活環境の改 善・保全	● 現道等における自動車からのNO2排出削減率	対象区域:費用便益分析対象区間 N O x排出削減量:約2t-W0x/年(約1,666t-W0x/年 ⇒ 約1,664t-W0x/年)
		● 現道等における自動車からのSPM排出削減率	対象区域:費用便益分析対象区間 SPM排出削減量:約90.1t-SPM/年(約986.1t-SPM/年 ⇒ 約986.0t-SPM/年)
		- 現道等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待され - 3区間がある	
		□ その他、環境や景観上の効果が期待される	
5. その街	也 他のプ い 17トと の関係	□ 道路の整備に関するプログラム又は都市計画道路整備プログラムに位置づけられている	I
		□ 関連する大規模道路事業と一体的に整備する必要あり	
		ロ 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		□ その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が見込まれる	

# 費用便益分析の結果

路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・BP・その他 の別
一般国道8号 (高岡環状道路)	六家立体	L=1.3Km	地域高規格道路	その他

計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体
8,100~14,100	2	北陸地方整備局

### ①費用

	事業費	維持管理費	更新費	合 計
基 準 年		令和	5年度	
単純合計	105億円	23億円		128億円
うち残事業分	65億円	23億円		88億円
基準年における 現在価値(C)	100億円	8.2億円		108億円
うち残事業分	58億円	8.2億円		66億円

# ② 便 益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合 計
基 準 年		令和	5年度	
供用年	令和11年度			
単年便益 (初年便益)	5.9億円	1.2億円	0.46億円	7.5億円
基準年における 現在価値(B)	95億円	19億円	7.4億円	121億円

### ③ 結 果

費用便益比(事業全体)	1.1
経済的純現在価値(事業全体)	13億円
経済的内部収益率(事業全体)	4.6%
費用便益比(残事業)	1.8
経済的純現在価値(残事業)	55億円
経済的内部収益率(残事業)	8.4%

注)費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

# ④ 感度分析

#### 【事業全体】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	8,100~14,100	±10%	1.1 ~ 1.2
事業費	105億円	±10%	1.1 ~ 1.2
事業期間	5年	±20%	1.1 ~ 1.2

#### 【残事業】

変動要因	基準値	変動ケース	費用便益比(B/C)
交通量	8,100~14,100	±10%	1.7 ~ 1.9
事業費	65億円	±10%	1.7 ~ 1.9
事業期間	5年	±20%	1.8 ~ 1.9

#### 交通状況の変化

#### 事業名:一般国道8号(高岡環状道路) 六家立体(事業全体・残事業)

#### (推計時点 R22年)

				整備なし(A)	整備あり(B)
①新設・さ	<b>山筑,</b> 苦吸	交通量 <sup>※1</sup>	[台/日]	-	14,100
[六家	立体]	走行時間※2	[分]	-	2
: 1.3	okm	走行時間費用※3	[億円/年]	-	3.58
	(主)高岡	交通量	[台/日]	8,800	1,200
	環状線:	走行時間	[分]	5	4
	1.8km	走行時間費用	[億円/年]	3.13	0.30
	(都)下伏	交通量	[台/日]	3,100	1,600
②主な周辺 道路 <sup>※4</sup>	間江福田	走行時間	[分]	3	3
	線:1.7km	走行時間費用	[億円/年]	1.64	0.84
		交通量	[台/日]	35,600	35,300
	国道8号: 4.4km	走行時間	[分]	7	7
		走行時間費用	[億円/年]	46.69	46.10
③その他: : 1,27		走行時間費用	[億円/年]	2899.20	2894.23

			走行時間費用 整備なし(A)	走行時間費用 整備あり(B)	走行時間短縮便益 (A - B)
合計:1,282.6km	走行時間短縮便益	[億円/年]	2950.66	2945.05	5.61

※1: 当該道路内の平均値または代表的な値を記載する。

※2: 配分計算結果を用いる場合と当該道路の代表的な速度から算出する場合がある。 ※3: 費用便益分析マニュアルに従い車種別、区間別に算出したものの合計値である。 ※4: 当該事業により大きな変化が生じる道路について3~5路線程度以内で記載する。

#### (2) 図面(①、②に該当する道路を明示すること)



# 費用便益分析の条件

事業名: 一般国道8号(高岡環状道路) 六家立体

(2)

			項目	チェック欄
		費用便益分析	「マニュアル	_
	算出マニュアル	(令和4年2月	国土交通省 道路局 都市局)	-
		その他		
		分析対象期間		50年間
4	分析の基本的事項	社会的割引率		4%
		基準年次		令和5年
	交通流の	1時点のみ推		■(R22)
	推計時点	複数時点での	)推計	
		整備の有無る	れぞれで交通流を推計	
	   推計の状況	整備の有無の	いずれかのみ推計	□有□無
	1年日 ジカベルに	いずれかのみの 推計の場合	いずれかのみの推計とした理由を記載	
		道路交通セン	ケスをベースとした自動車OD表	■(H27センサス)
	   推計に用いた	(三段階推定	法)	-(1127 22 ) ) (
	OD表	パーソントリッ	プ調査をベースとした自動車OD表	
		(四段階推定	法)	_
		その他(		
交		無		
通	   開発交通量の	有	T.	
流	考慮		考慮した開発交通量(トリップ数)	( )台トリップ/日
推計		有の場合のみ	考慮した理由を記載	
		QーV式を用し	.ハた配分	
		転換率式を用	いた配分	
		QーV式と転打	奥率式の併用による配分	
		均衡配分(リ)	ンクパフォーマンス関数を用いた配分)	
		簡易手法		
	配分交通量の	# B T \ A	小規模事業である	
	推計手法	簡易手法の 採択理由	山間部海岸部で併行道路が少ない	
			その他( )	
		簡易手法の考え	方(将来交通量の設定方法等)	
		その他(		
		各回の配分約	冬了時の速度を交通量でウェイト付け	
		して設定		
		採用理由を記載		
	速度設定の			
	考え方	最終配分の選	· 使度	
		採用理由を記載		
		その他(最終	ニーロー 配分でQoを超える場合、実速度と照合し設定。)	
			- 8 -	

(3)

			項目	チェック欄
		考慮しない		
		考慮する		
	4548		面的に考慮	
	休日交通の 影響		対象路線のみ考慮	
	が昔	考慮する 場合のみ	採用した休日係数	( ) %
			休日係数を考慮した理由および採用した休日係数の考え方	を記載
		考慮しない	1	
		考慮する		
	• • •		採用した通行止め日数	( ) 目
	災害等による		採用した通行止め日数の考え方を記載	
	通行止めの 影響	   考慮する		
	ボノ 目	場合のみ	とり止め交通の考慮する	
			とり止め交通を考慮しない場合はその理由、考慮した場合は	その考え方を記載
		考慮しない	•	
		考慮する		
			採用した冬期日数	(101) 日
	な出去さる		採用した冬期日数の考え方を記載	······l·······························
	冬期交通の 影響		降雪が最初に観測された日から最後に観測され	た日までの冬期日数
	が音	考慮する 場合のみ	(101日)及び降雪日数(50日)を考慮	
便		-33 L 0307	冬期の走行速度と交通容量の関係	
益の			設定の考え方を記載	
算				
定	交通流推計の	ブロック別・車	・種別走行台キロの伸び率による設定	
	時点以外の	その他		
	便益の算定	(	)	
	+		<u> </u>	
	車種別時間 価値原単位	独自に設定し		
	神恒冰中位	昇山低拠で添す 	19 000	
		# 5 5 4 0 1		
	+ 14 Du + 15		デマニュアルの値を使用 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	車種別走行 経費原単位	独自に設定し		
	社員原華世	弁山収拠で派	19 OCC	
		中央分離帯の	 D有無を考慮	
	交通事故減少		フィーボとう感 D有無を考慮しない	
	便益算定		合、算出根拠を添付すること)	
		管内には多車を ため、考慮しない	線でも中央分離帯のある区間とない区間が混在しており、個別 、	に設定していると煩雑になる
		考慮しない	*0	
	走行時間短縮・走行	考慮する		
	経費減少・交通事故		算出根拠を添付すること)	
	減少以外の便益			
	- スの州	<u> </u>		
	その他			

(4)

			項目	チェック欄
		詳細事業計画	による値を採用	
	事業費	標準投資パタ		
		その他(	)	
	維持管理費	維持管理費の設定	- 定根拠を記載	
	推付官埕貝 		<sup>情局管内直轄路線の実績値から設定。</sup>	
	更新費	更新費の設定根据		
費	雪寒費	積雪地域また	は寒冷地域である	
用用		考慮しない		
の		考慮する		
算	= 1.34 g = +6 144 7.8		事業費を考慮	
定	当該道路整備が 行われない場合		維持管理費を考慮	
	の費用	考慮する 場合のみ	当該道路整備が行われない場合の費用を考慮した理由及び考え方を記載(	対策内容、費用等)
	その他			
4. ₹	その他			
······				
*********				***************************************

#### 費用の現在価値算定表(事業全体)

箇所名:一般国道8号(高岡環状道路) 六家立体

#排管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む) 単価(億円) 延長(km) 単純価値(億円) 0.39 1.3 0.51

F		1	1		1		0.39	·	0.51
	l	割戻率	GDP	事業費	(億円)	維持管理		更新費	
年次	年度		デフレータ	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値	単純価値	現在価値
-10年目	R 1	1.1699	101.2	0.45	0.53				
−9年目	R 2	1.1249	101.9	8.45	9.50				
-8年目	R 3	1.0816	101.8	11.82	12.78				
-7年目	R 4	1.0400	101.8	10.45	10.87				
-6年目	R 5	1.0000	101.8	8.18	8.18				
-5年目	R 6	0.9615	101.8	10.00	9.62				
-4年目	R 7	0.9246	101.8	15.45	14.28				
-3年目	R 8	0.8890	101.8	18.18	16.16				
-2年目	R 9	0.8548	101.8	13.64	11.66				
-1年目	R 10	0.8219	101.8	7.91	6.50				
供用開始年次				7.91	0.50	0.46	0.07		
	R 11	0.7903	101.8			0.46	0.37		
1年目	R 12	0.7599	101.8			0.46	0.35		
2年目	R 13	0.7307	101.8			0.46	0.34		
3年目	R 14	0.7026	101.8			0.46	0.33		
4年目	R 15	0.6756	101.8			0.46	0.31		
5年目	R 16	0.6496	101.8			0.46	0.30		
6年目	R 17	0.6246	101.8			0.46	0.29		
7年目	R 18	0.6006	101.8			0.46	0.28		-
8年目	R 19	0.5775	101.8			0.46	0.27		
9年目	R 20	0.5553	101.8			0.46	0.26		
10年目	R 21	0.5339	101.8			0.46	0.25		
11年目	R 22	0.5339	101.8			0.46	0.23		
12年目	R 23	0.4936	101.8			0.46	0.23		
13年目	R 24	0.4746	101.8			0.46	0.22		
14年目	R 25	0.4564	101.8			0.46	0.21		
15年目	R 26	0.4388	101.8			0.46	0.20		
16年目	R 27	0.4220	101.8			0.46	0.20		
17年目	R 28	0.4057	101.8			0.46	0.19		
18年目	R 29	0.3901	101.8			0.46	0.18		
19年目	R 30	0.3751	101.8			0.46	0.17		
20年目	R 31	0.3607	101.8			0.46	0.17		
21年目	R 32	0.3468	101.8			0.46	0.16		
22年目	R 33	0.3335	101.8			0.46	0.10		
23年目			101.8						
	R 34	0.3207				0.46	0.15		
24年目	R 35	0.3083	101.8			0.46	0.14		
25年目	R 36	0.2965	101.8			0.46	0.14		
26年目	R 37	0.2851	101.8			0.46	0.13		
27年目	R 38	0.2741	101.8			0.46	0.13		
28年目	R 39	0.2636	101.8			0.46	0.12		
29年目	R 40	0.2534	101.8			0.46	0.12		
30年目	R 41	0.2437	101.8			0.46	0.11		
31年目	R 42	0.2343				0.46	0.11		
32年目	R 43	0.2253	101.8			0.46	0.10		
33年目	R 44	0.2166	101.8			0.46	0.10		
34年目	R 45	0.2183	101.8			0.46	0.10		
		0.2083	101.8						
35年目	R 46					0.46	0.09		
36年目	R 47	0.1926	101.8			0.46	0.09		
37年目	R 48	0.1852	101.8			0.46	0.09		
38年目	R 49	0.1780	101.8			0.46	0.08		
39年目	R 50	0.1712	101.8			0.46	0.08		
40年目	R 51	0.1646	101.8			0.46	0.08		
41年目	R 52	0.1583	101.8			0.46	0.07		
42年目	R 53	0.1522	101.8			0.46	0.07		
43年目	R 54	0.1463	101.8			0.46	0.07		
44年目	R 55	0.1407	101.8			0.46	0.07		
45年目	R 56	0.1353	101.8			0.46	0.06		
46年目	R 57	0.1301	101.8			0.46	0.06		
47年目	R 58	0.1351	101.8			0.46	0.06		
48年目	R 59	0.1203	101.8			0.46	0.06		
49年目	R 60	0.1157	101.8			0.46	0.05	<b> </b>	
A =1	1					/-			
合 計				104.53	100.08	23.18	8.19	0.00	0.00
単純事業費計				104.53		23.18		0.00	

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、 必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

延長(km) 単純価値(億円)

#### 費用の現在価値算定表(残事業)

箇所名:一般国道8号(高岡環状道路) 六家立体

維持管理費の単純単価の算出(消費税相当額含む)

単価(億円)

0.39

		刺言泰	ODD	古光串	//辛四)	維持管理	0.39 弗 / 连四 \		
年次	年度	割戻率	GDP デフレータ	事業費 単純価値	現在価値	単純価値	<u>賃(18円)</u> 現在価値	<u>更新費</u> 単純価値	( <u>1息円)</u> 現在価値
	<del>平反</del> R 6	0.9615	101.8	<u> </u>	9.62	平心间间	<b>九江</b> Ш 但	平地Ш但	<b>九江</b> Ш 但
	R 7		101.8	15.45	14.28				
-3年目	R 8		101.8	18.18	16.16				
	R 9		101.8	13.64	11.66				
			101.8						
				7.91	6.50	0.46	0.07		
		0.7903	101.8 101.8			0.46	0.37		
1年目	R 12	0.7599 0.7307	101.8			0.46	0.35		
<u>2年目</u> 3年目						0.46	0.34		
	R 14		101.8			0.46	0.33		
4年目	R 15		101.8			0.46	0.31		
5年目	R 16		101.8			0.46	0.30		
6年目	R 17	0.6246	101.8			0.46	0.29		
7年目	R 18		101.8			0.46	0.28		
8年目	R 19		101.8			0.46	0.27		
9年目	R 20		101.8			0.46	0.26		
10年目	R 21	0.5339	101.8			0.46	0.25		
11年目	R 22	0.5134	101.8			0.46	0.24		
12年目	R 23	0.4936	101.8			0.46	0.23		
13年目	R 24		101.8			0.46	0.22		
14年目	R 25		101.8			0.46	0.21		
15年目	R 26		101.8			0.46	0.20		
16年目	R 27	0.4220	101.8			0.46	0.20		
17年目	R 28	0.4057	101.8 101.8			0.46 0.46	0.19 0.18		
18年目	R 29								
19年目 20年目	R 30		101.8			0.46	0.17		
	R 31	0.3607	101.8			0.46	0.17		
21年目	R 32	0.3468	101.8			0.46	0.16		
22年目	R 33		101.8			0.46	0.15		
23年目	R 34		101.8			0.46	0.15		
24年目	R 35		101.8			0.46	0.14		
25年目	R 36		101.8			0.46	0.14		
26年目	R 37	0.2851	101.8			0.46	0.13		
27年目	R 38	0.2741	101.8			0.46	0.13		
28年目	R 39		101.8			0.46	0.12		
29年目	R 40		101.8			0.46	0.12		
30年目	R 41	0.2437 0.2343	101.8			0.46 0.46	0.11		
31年目	R 42		101.8				0.11		
32年目 33年目	R 43		101.8 101.8			0.46 0.46	0.10 0.10		
33年日 34年目	R 44		101.8			0.46	0.10		
	R 45		101.8			0.46	0.10		
35年目 36年目									
37年目	R 47		101.8 101.8			0.46 0.46	0.09 0.09		
37年日 38年目	R 48		101.8			0.46	0.09		
39年目	R 50		101.8			0.46	0.08		
40年目	R 51	0.1712	101.8			0.46	0.08		
41年目	R 52	0.1646	101.8			0.46	0.08		
41年日 42年目	R 53		101.8			0.46	0.07		
43年目	R 54		101.8			0.46	0.07		
43年日 44年目	R 55		101.8			0.46	0.07		
45年目	R 56		101.8			0.46	0.07		
46年目	R 57	0.1301	101.8			0.46	0.06		
47年目	R 58		101.8			0.46	0.06		
48年目	R 59		101.8			0.46	0.06		
49年目	R 60		101.8			0.46	0.06		
43十日	17 00	0.1137	101.8			0.40	0.05		
合 計	1			65.18	58.22	23.18	8.19	0.00	0.00
				00.18	J0.ZZ	۷۵.۱۵	0.19	0.00	0.00
単純事業費計				65.18		23.18		0.00	

注1)事業費の投資パターンは、費用便益分析の計算条件として設定した標準的な投資パターンであり、 必ずしも全体の予算制約等を踏まえたものではない。

このため、毎年度の予算の状況や、用地・工事の進捗により、実際の事業展開とは異なることがある。 (投資パターンの変化による費用便益分析結果への影響等については、再評価及び事後評価として 評価を実施。)

注2)評価対象期間最終年において、用地残存価値(割引後の用地費)を控除している。

様式ー5	計 (億円)	現在価値割引率4%	5.94	5.68	5.44	5.21	4.99	4.70	4.30	4.20	4.02	3.85	3.69	3.52	3.36	3.21	3.07	2.93	2.80	2.6 /	2.55	2.43	2.32	2.52	2.12	1.93	1.84	1.76	1.68	1.60	1.53	1.46	1.39	1.33	1.26	1.21		1.10	100	0.95	0.93	0.87	0.83	0.79	0.75	0.72	0.68	0.65	0.62	121.03
_	¢п	便益合計		7.48	7.45	7.42	96.7	00.7	7.30	7.27	7.24	7.21	7.18	7.13	7.09	7.04	66.9	6.94	0.89	0.84	6.80	0.73	0.70	09.9	0.00	6.51	6.46	6.41	6.36	6.31	6.26	6.22	6.17	6.12	6.07	6.02	0.98	20.0	5 83	5.78	5.74	5.69	5.64	5.60	5.55	5.50	5.46	5.41	5.36	325.40
	便益(億円)	現在価値 ③×(A)	0.37	0.35	0.34	0.32	0.31	0.29	7.6.0	0.26	0.25	0.24	0.23	0.22	0.21	0.20	0.19	0.18	0.17	0.10	0.16	0.0	0.14	0.1	0.10	0.12	0.11	0.11	0.10	0.10	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.07	70.0	0.0	90.0	90.0	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	7.41
	交通事故減少便益(億円)	@	0.46	0.46	0.46	0.46	0.46	0.43	0.45	0.45	0.45	0.44	0.44	0.44	0.43	0.43	0.43	0.43	0.42	0.42	0.42	0.41	0.41	0.40	0.40	0.40	0.39	0.39	0.39	0.38	0.38	0.38	0.37	0.37	0.37	0.36	0.30	0.30	0.35	0.35	0.35	0.34	0.34	0.34	0.33	0.33	0.33	0.32	0.32	19.83
		現在価値 ②×(A)	0.93	0.89	0.86	0.82	0.75	0.70	0.69	0.66	0.63	0.61	0.58	0.56	0.53	0.51	0.48	0.46	0.49	0.42	0.40	0.30	0.37	0.00	0.55	0.30	0.29	0.28	0.26	0.25	0.24	0.23	0.22	0.21	0.20	0.19	0.18	0.1	0.10	0.15	0.13	0.14	0.13	0.12	0.12	0.11	0.11	0.10	0.10	19.04
	第田)	(S)		1.18	1.17	1.1/	1.16	1.10	1.15	1.15	1.14	1.14	1.13	1.12	1.12	1.11	1.10	1.09	90.1	1.08	1.07	1.00	1.05	20.1	1 03	1.02	1.02	1.01	1.00	0.99	0.98	0.98	0.97	0.96	0.95	0.95	48.0	0.90	0.92	0.91	06.0	0.89	0.88	0.88	0.87	0.86	0.85	0.85	0.84	51.15
	走行経費減少便益(億円)	普通貨物	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.20	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	0.23	11.57
	走行稻	小型貨物	0.12	0.12	0.12	0.12	0.11	0 0	0.11	0.11	0.11	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	00	01.0	60.0	60.0	60.0	0.00	0.09	0.09	0.00	0.00	0.00	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.00	0.0	0.0	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	4.68
		東田   東	0.83	0.83	0.83	0.82	0.82	0.02	0.0	0.81	08'0	0.80	0.80	0.79	0.78	0.78	0.77	0.76	0.75	0.75	0.74	0.73	0.73	0.71	0.71	0.70	0.69	0.68	0.68	0.67	0.66	0.66	0.65	0.64	0.64	0.63	0.62	0.02	0.00	0.59	0.59	0.58	0.57	0.57	0.56	0.55	0.55	0.54	0.53	34.91
		現在価値	4.64	4.44	4.25	4.07	3.90	0.73	3.42	3.28	3.14	3.01	2.88	2.75	2.63	2.51	2.40	2.29	2.18	2.09	1.99	08.1	1 73	2.7	1.60	1.51	1.44	1.37	1.31	1.25	1.19	1.14	1.09	1.04	0.99	0.94	0.90	0.00	0.02	0.75	0.70	0.68	0.65	0.62	0.59	0.56	0.53	0.51	0.49	94.57
	(E 無	## E		5.84	5.82	5.80	5.77	0.73	5.70	5.68	5.66	5.63	5.61	5.57	5.53	5.50	5.46	5.42	5.39	5.35	5.31	3.27	5.24	0.20	5.10	5.09	5.05	5.01	4.97	4.94	4.90	4.86	4.83	4.79	4.75	4.71	4.00	4.04	4.57	4.53	4 4 9	4.46	4.42	4.38	4.35	4.31	4.27	4.24	4.20	254.41
六家立体	間短縮便益(億円)		1.24	1.24	1.25	1.25	1.25	1.20	1.26	1.27	1.27	1.27	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	07.1	1 28	1 29	1 28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.28	1.27	12.1	1 27	1 27	1 27	12.1	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	1.27	63.57
岡環状道路)	走行時間	小型貨物	0.91	0.89	0.88	0.87	0.86	0.00	0.0	0.81	0.80	0.79	0.78	0.78	0.77	0.76	0.76	0.75	0.74	0.74	0.73	0.70	0.72	0.71	0.70	0.69	69'0	0.68	0.68	0.67	0.66	0.66	0.65	0.65	0.64	0.63	0.03	0.02	190	090	0.00	0.59	0.58	0.58	0.57	0.57	0.56	0.55	0.55	35.21
箇所名:一般国道8号(高岡環状道路)			3.72	3.71	3.69	3.68	3.66	0.04	3.63	3.60	3.58	3.57	3.55	3.52	3.49	3.46	3.43	3.40	3.30	3.33	3.30	9.27	3.24	3.10	2	3.12	3.08	3.05	3.02	2.99	2.96	2.93	2.90	2.87	2.84	2.81	2.78	2.74	2.68	2 65	2 62	2.59	2.56	2.53	2.50	2.47	2.44	2.41	2.38	155.62
箇所名:一鳥	GDP ∓°7√–4		101.8	101.8			101.8						101.8										101.8						101.8			101.8					01.0							101.8	101.8				101.8	
	割戻率	€		0.7599			0.6/56			L		19 0.5339	6 0.5134				_						3 0.3468						4 0.2636							1	4 0.1920						_		12 0.1353			Ц	0.1157	
7lik	掛	<b>本</b>	6.0				0.99561					52 0.99549	0.99276			_						1	0.99219									0.99153					0.99121							93 0.99069	33 0.99062				0.99036	
本.残事学	年次別伸び	北陸ブロック)		Ш	_	4	1.00256	1			L	1.00252	0.99993		_	4	4	_	┸			⊥	21 0 99993						L			58 0.99993		_		_	0.99993	L	┸	L	┸		L	54 0.99993	0.99993				4 0.99993	
(事業全位	総走行台もの年次別伸び率	(北陸ブル型貨物	9	77 0.98787		1	70 0.98/41					30 0.98638	26 0.99207			4				1		┸	23 0 99 131			┸			73 0.99083			12 0.99058				1	0.99018		╙	┖	, c			12 0.98954	0.98946			_	33 0.98914	
5算定表(		#	Ε	12 0.99577			15 0.995/1				20 0.99562	21 0.99560	22 0.99126								30 0.99060	┸	32 0.99042						39 0.98973			42 0.98942					40 00000				0		0	55 0.98812	56 0.98802	0			60 0.98763	
便益の現在価値算定表(事業全体・残事業)	年度		ď		<u>د</u> ر	<b>x</b> (	ב מ	۵ م	<u> </u>	2 22	œ	۳	٣	œ	œ	œ	œ	<u>د</u> ر	צ נ	ر ع	<b>x</b> (	2 0	ב מ	2 0	ב מ	2 02	<u>~</u>	<u>~</u>	œ	ď	œ	œ	œ	œ	œ	<u>ب</u> ر	ב מ	۵ م	2 0	2 0	2 02	<u> </u>	~	ď	٣	œ	œ	<u>œ</u> (	œ	
便益の		年次	供用開始年次	1年目	2年日	34年	4年日	т П П	7年日	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	14年目	15年目	16年目	17年日	18年	19年日	107	7.7年日	1 十 2 2	24年日	25年日	26年目	27年目	28年目	29年目	30年目	31年目	32年目	33年目	34年目	35年日	30年日	38年日	39年日	40年日	41年目	42年目	43年目	44年目	45年目	46年目	47年目	48年目	49年目	<b>₩</b>

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道8号 (高岡環状道路)	六家立体	2	1.3km

#### ■事業費内訳【事業全体】

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					10,261	
	改良費				1,291	
		土工	m3	39,900	456	切土、盛土
		法面工	m <sup>*</sup>	400	1	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	809	補強土壁、L型擁壁等
		排水工	式	1	20	
		中央分離帯工	m	220	5	
	橋梁費				8,564	
		100m以上	m	916	8,564	8橋(内ランプ橋2橋、本線橋6橋)
	舗装費				271	
		車道舗装	m <sup>*</sup>	24,780	268	
		歩道舗装	m³	810	3	
	付帯施設	費			135	
		交通管理施設工	式	1	135	標識工、電気施設工、占用物移設工、撤去工等
②用地及補	償費				120	
	補償費		式	1	120	
③間接経費			式	1	1,119	地質調査、測量、設計にかかる費用及び予備費
全体事業費	Ì				11,500	

#### 【単価等について】

- 〇工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近隣事業箇所の実績単価を使用する 〇用地補償費算出にあたっては、近隣事業箇所の直近実績単価を使用

路線名	箇所名	車線数	延長
一般国道8号 (高岡環状道路)	六家立体	2	1.3km

#### ■事業費内訳【残事業】

区分	費目	工種	単位	数量	金額 (百万円)	備考
①工事費					6,840	
	改良費				1,281	
		土工	m3	39,020	446	切土、盛土
		法面工	m <sup>*</sup>	400	1	切土法面、盛土法面
		擁壁工	式	1	809	補強土壁、L型擁壁等
		排水工	式	1	20	
		中央分離帯工	m	220	5	
	橋梁費				5,153	
		100m以上	m	916	5,153	8橋(内ランプ橋2橋、本線橋6橋)
	舗装費				271	
		車道舗装	m³	24,780	268	
		歩道舗装	m³	810	3	
	付帯施設費				135	
		交通管理施設工	式	1	135	標識工、電気施設工、占用物移設工、撤去工等
②用地及補償費					115	
補償費			式	1	115	
③間接経費			式	1	215	
全体事業費					7,170	

#### 【単価等について】

- 〇工事費算出にあたっては、土木工事標準歩掛及び近隣事業箇所の実績単価を使用する
- 〇用地補償費算出にあたっては、近隣事業箇所の直近実績単価を使用